



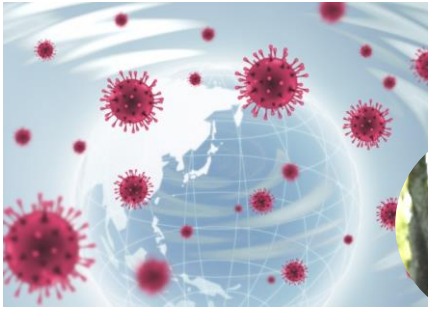
この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年4月4日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

第3波でなぜ医療崩壊が起きたか

10日(土)＝くらしナビ面



新型コロナウイルスの第3波では、多くの地域で医療スタッフや病床が不足し、患者が病院に入院できずに自宅で亡くなるケースが相次ぎました。日本は医療へのアクセスの良さから「医療大国」と呼ばれていました。そ

れなのに、なぜ医療崩壊と言うべき事態を招いてしまったのでしょうか。「長年の医療政策のツケが回ってきた」。こう指摘する鹿児島大学の伊藤周平教授＝写真＝に聞きました。

特集 **ワイド**

ホテルグランドパレス閉館

6日(火)＝夕刊特集ワイド



コロナ禍の中、戦後の日韓史にその名が刻まれた東京・飯田橋のホテルグランドパレスが6月末で閉館することになりました。後に韓国の大統領になった金大中氏（2009年に85歳で死去）が、母国の民主化を推し進めようとして日本に身を寄せていた時に、韓国へ拉致

される現場となったホテルです。閉館を前に、事件をテーマにした2002年の日韓共作映画「KT」を撮った阪本順治監督（62）＝写真＝とホテルを訪ね、インタビューしました。



韓国のソウル中央裁判所が1月、元慰安婦への賠償を命じた。日本政府は下しました。判決を認められず、日本側は控訴せず、

た。日韓関係に影を落とす慰安婦問題を、今後、どのように解決していくのか。中国人強制的に補償を巡る三つの

そこが聞きたい
韓国との戦後補償問題解決の「手がかり」
中国人強制連行訴訟の和解に関つた内田弁護士

6日(火)
＝オピニオン面

雅敏弁護士＝写真＝が、解決への手がかりを聞きま

新連載「地震学の現在地」

8日(木)＝科学面



地震の専門家にとって「想定外」だった東日本大震災の発生から10年が経過しました。「地震学の今」から見えてきたのは、新型コロナウイルス感染症への対応と同様に、科学をどう政策に生かすかという問題でした。

情報公開請求で得られた公文書や関係者たちの証言を基に、地震学の進展や、現場でのひずみを描く連載企画「地震学の現在地」が始まります。

新毎日

150

2022年2月21日
毎日新聞創刊150年

4月1日より、この「記事すごい！」の担当部署が、D・クリエーションセンターから、新組織の「カスタマーリレーション本部」に変わりました。組織名に象徴されるように、あらゆる形で毎日新聞とお客さまとの接点を作り、それを「絆」にまで深めていく取り組みを続けていきます。「記事すごい！」もその一つです。引き続き、よろしくお願いします。（千代崎聖史）

